

ごあいさつ

学校長 今村律子

2018年度の『和歌山大学教育学部附属小学校紀要』を刊行します。

今年3月に「社会に開かれた教育課程」を大きなスローガンとして学習指導要領が改訂されました。その重要課題の1つである『資質・能力』は、2012年12月から「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」において議論されています。目紛しく変化する社会においては「何を学ぶのか」を大切にしながら、「何ができるようになるか」を重視する必要があります。中央教育審議会では、育成を目指す資質・能力を①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の3つを柱としています。

本校では、昨年度までの3年間「問い続け、学び続ける子どもたち」という研究主題のもと、研究に取り組んできました。子どもの学ぼうとする学習意欲に焦点を当て、子どもが問い続け、学び続けようとする学びの実現を、子どもの言葉から探ってきました。この研究を継承しつつ、本年度は、新しい学校提案「未来に生きて働く資質・能力の育成」を掲げています。21世紀の担い手である子どもたちが協働して未来を切り拓いていくために必要となる資質・能力を、「探究力」（前述の資質・能力3つの柱を含む基盤となる資質・能力の総体）と、「省察性」（目的に応じて、立ち止まってモニタリングしたり、問い直したり振り返ったりする等、学習や行動を調整する資質・能力）の2つと捉え、研究副題を「探究的な学びとカリキュラム・デザイン」とし、何を学ぶのかということだけでなく何ができるようになるのかを明確にしたカリキュラムづくりと、資質・能力を育成する探究的な学びの実現を目指して、研究に取り組んできました。それらの授業実践を、2018年10月に開催した教育研究発表会を経て、研究成果という形で皆様のもとにお届けする次第です。ご高覧いただき、皆様より様々な角度から忌憚のないご意見を賜り、今後なお一層努力して参りたいと思います。

最後になりましたが、本校の教育・研究活動の推進にあたり、ご指導、ご助言をいただきました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。